

# ダクト発生4～7エリア間オープン情報

2006年 8月19日～20日 JG0TEV 中村

19日は4～7エリア間オープン、20日には9～0エリア間オープンが確認されました。

## 8月19日のダクト発生域(推定)



午後から夕方にかけて7～4エリアオープンが確認されました。  
21:01 JR9HCV/9(石川県金沢市)-J07IZC(秋田県にかほ市) RS53-59

日本付近は前線や台風の影響で上昇流域に覆われましたが、日本海南部を中心に高気圧に伴う晴天域に覆われて何らかの影響でダクトが発生したものと推定します。ダクトは夜間になって消失した模様。新潟県内は猛暑が続いていて、長岡市の最高気温は36.2℃を記録したほか、県内は軒並み真夏日となりました。

## 8月20日のダクト発生域(推定)



ダクト発生による9～0エリア間オープンを確認しました。  
18:26 JA9MGH(富山県高岡市)-JG0TEV/0(新潟県長岡市) RS58-57  
\*JG0TEVモバイルホップ

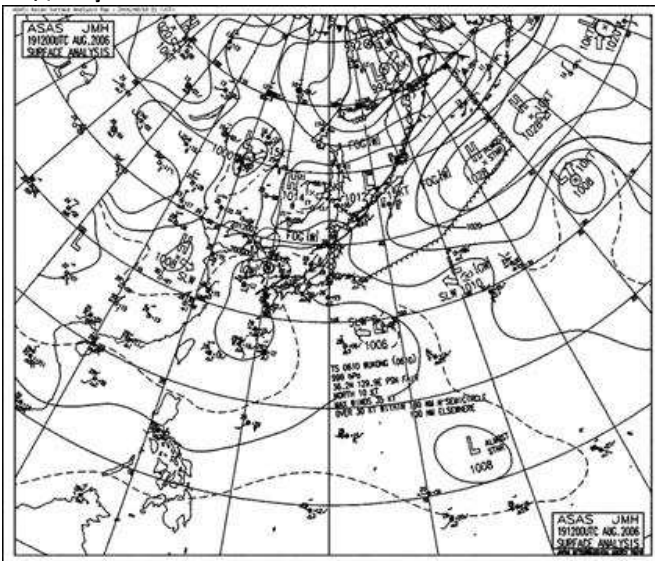
日本付近は高気圧に覆われながらも湿潤域、上昇流域に覆われたことによってダクト発生は局所的なものになったと考えます。

### 気象解析

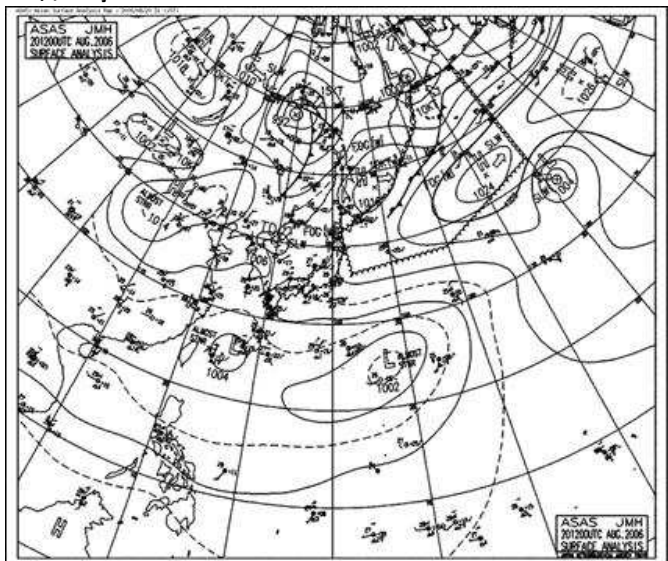
地上天気図から19日の日本付近に明瞭な高気圧は確認できず、むしろ気圧の谷の場となっています。20日はオホーツク海高気圧の勢力が強まってきた日本や東日本で高気圧に覆われました。

### 地上天気図

19日21時



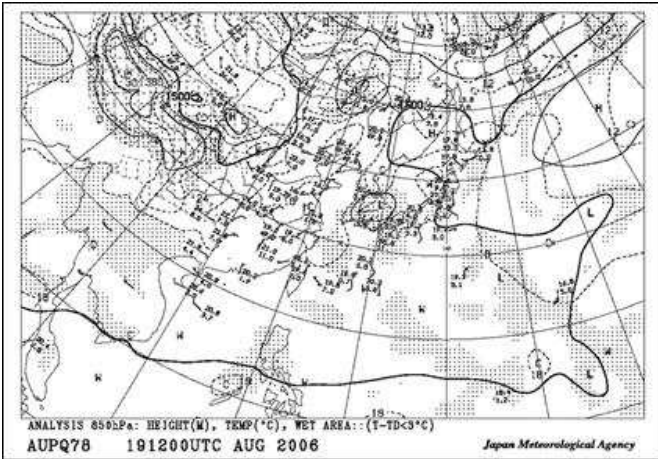
20日21時



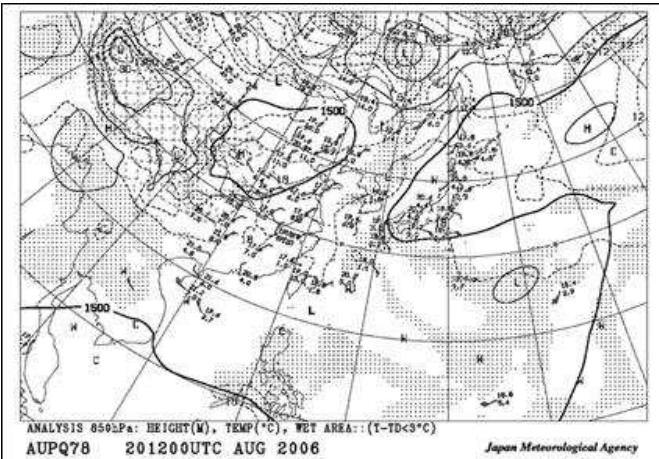
850hpa面解析図をみると、19日に北日本を覆っていた1,500mの等高線は、20日になると本州付近をすっぽりと覆うようになりました。高気圧の勢力が強まったことがわかります。

850hpa面高度・気温・湿数

19日21時



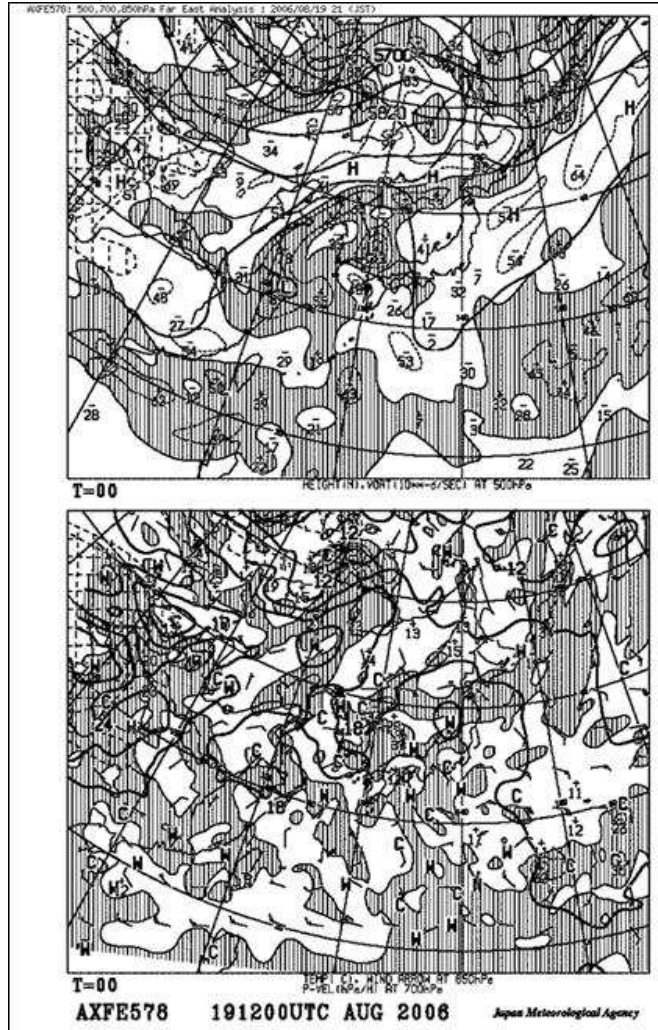
20日21時



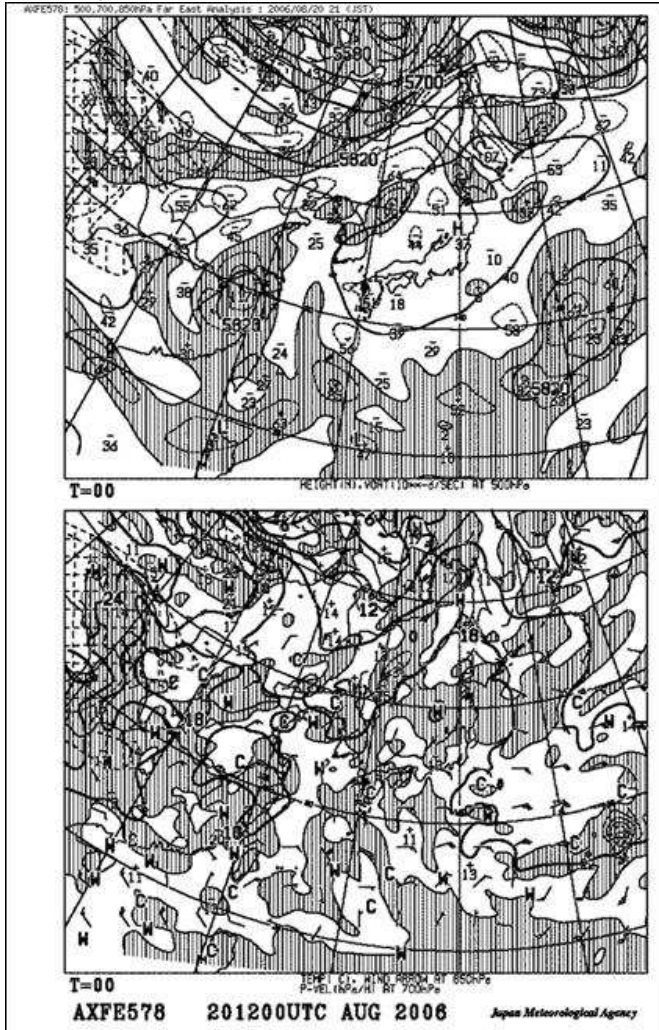
500hpa面の中層大気を見ると、5,880mの等高線は19日に東にほかから北日本を覆っていましたが、20日になると日本付近をすっぽりと覆うようになりました。これに伴って負渦度領域も日本付近を広く覆うようになりました。700hpa面鉛直流は19日、20日ともに上昇流域が卓越していますが、等温線と風向から暖気移流によって空気があたためられた結果によるものと判断します。

500hpa面高度と渦度・700hpa面鉛直流と850hpa面気温

19日21時



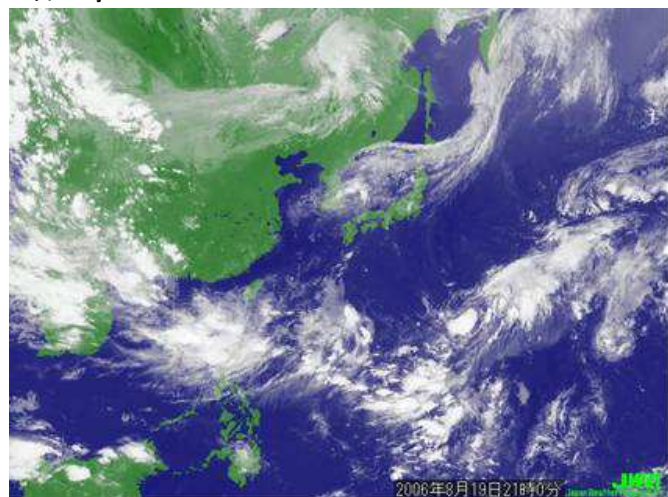
20日21時



以上から、19日から20日にかけて日本付近は上空の高気圧の勢力が強まったことでダクト発生条件がそろいやすくなったものと考えます。

【参考】赤外線雲画像

19日21時



20日21時

